

南京都少年野球大会規則と重要事項

1. 抽選会や代表者会議で説明された事決定された事項は、チーム全員に徹底すること。
 2. 競技規則は、2021年度版全日本軟式野球連盟『公認野球規則』、『競技者必携』及び当連盟の「大会特別規則と注意事項」を適用。(但し投球制限については、下記による)
 3. 選手の登録は、20名以内(但し、入賞メダルは、13個以内)とする。また、指導者の登録は、代表1人、監督1人、コーチ2人、スコアラー1人の5名とする。
 4. ベンチは、組み合わせ番号の若い方を一塁側とする。ベンチには、いずれも登録済選手・指導者が入る事。
 5. 選手並びに監督、コーチは、必ず同色・同形・同意匠のユニフォーム(但し、すそ幅の広い・ストレートタイプのユニフォームのパンツは、着用禁止)と帽子を着用し背番号を付ける。アンダーシャツ、ストッキング、は、同色で用統一し、スコアラーも同一の帽子を着用する事。(ゴム底スパイクについては同一のものでなくても可とする)背番号は、選手は、0～99番(但し、主将は10番)、コーチは、28、29番、監督は、30番とする。
 6. 監督の不在の時は、コーチの28番又は29番が監督代行し、必ず事前に球審及びコート責任者に届けること(打順表(メンバー表)にも代行者名を記入)。
 7. 降雨、雷による中止決定は、大会本部が行う。但し、小雨の場合でも日程の都合上、球場が使用可能な状態の場合は、試合を行う。尚、雷時は、安全を優先し、中断を繰り返す行いもあります。
 8. 次試合のチームは試合予定開始時刻30分前までに集合する事。直ちに当連盟専用の打順表(メンバー表)を受領し、登録選手数内で記入作成し(氏名・フルネーム、フリガナ、控え選手も記入)、3枚共本部に提出。試合開始挨拶前に球審の指示のもとに、ホームベース後方に監督・主将にグラウンドルールを説明し攻守を決定する。
 9. 試合開始予定時刻前でも前の試合が早く終了した時には、次の試合を開始する。
 10. 試合開始予定時刻になっても、球場に来ないチームは、原則として棄権とみなす(9名選手がそろってない場合も)。遅れる場合は、必ず、事前に会場責任者まで連絡を入れること。
 11. 当連盟の試合規定回数は7回とする。但し、時間は1時間20分以降には新しいイニングに入らない。
 - (1). コールドゲームの採用。 3回を終わって15点差、4回10点差、5回以降7点差がある場合は、コールドゲームとする。但し、決勝戦には、コールドゲームは、採用しない。
 - (2). 抽選の採用。 7回を終了又は、規定時間内で勝敗が決しない時は、最終メンバー9名で、ポジション順に整列し、先攻、後攻の順にカード(勝ち○、負け×の数で)を引き抽選で決める。
 - (3) 準々決勝戦より7回及び1時間20分を終了して勝敗が決しない時は、下記①②項の規定に基づきタイブレーク制を採用し【特別延長戦】で勝敗を決定する。特別延長戦は、2イニングまでとし、決着がつかない時には抽選で勝敗を決定する。
 - ①準々及び準決勝戦は、7回もしくは1時間20分を経過し同点の時に行う。
 - ②但し決勝戦は、7回もしくは1時間20分を経過し同点の時には延長を2イニングまで行い、なお同点の時に行う。又、いずれも勝敗の決した回で終了する。
- 当連盟特別規則** 【 タイブレーク・特別延長戦 】

1、継続攻守順で、一死満塁の継続打順で行う。 2、前回の最終打者を1塁走者とし、2塁、3塁走者は、順次前の打者が走者に入る。 3、同じ回の終了で点差がついた時点で終了とする。
12. 試合中に降雨、暗黒等により、試合を中止した場合、当連盟では、時間50分経過、又は、4回試合を経過しておれば試合は成立したとして終了する事がある。尚、勝敗は、最終の均等回の得点を持って決定する。それ以外は、後日初回よりの再試合を行う。(継続試合は、行わない)
13. 捕手は、公認のマスク、スロートガード(平成28年度より義務)、ヘルメット、プロテクター、レガース、ファウル・

カップを着用する。イニングの投球練習にも、必ず捕手・代理捕手は、マスクを着用すること。

14. 投手は、投手板に触れて捕手からのサインを受けること。打者は、ヘルメットを着用し、打者席に入って速やかに打撃姿勢に入るバッターボックス内でサインを受けること。次打者は、必ず次打席（素振りは、禁止）に膝を落として控える。
15. 守備側からのタイム中に投手は、捕手を相手に投球練習をしては、ならない。
16. 監督、コーチ、選手は、タイムを要求せずみだりにベンチを出てはならない。また、タイムは、要求した時でなく審判が認めた時である（尚、作戦タイムは、7回で守備、攻撃共3回迄）。
17. 抗議できるのは、監督と当該選手の内1名とする。但し、審判の裁定が規則の適用を誤って下されたと疑いがあった時のみ行うことができる。また、抗議は2分以内とします。
18. ベースコーチボックスには、必ず攻撃前のミーティングに加わらず直ちに1、3塁側共ヘルメット着用して入ること。
19. 競技技術並びにマナー向上と、試合のスピード化を図り少年らしい態度を心掛ける。また、どんな方法であろうとも相手チームや父兄応援団に対しても悪口、暴言を吐く事を禁ずる。その責務は、全て所属チームが負うものとする。
20. 危険なプレイ（捕手のホームベース付近での危険な走塁妨害、走者の足を高く上げてのスライディング等）を禁ずる。
21. **変化球は、子供の健康上、故意・くせを問わず一切禁止。（審判判断によって交代を指示する事もある）。**
22. バッターボックスから片足を出してベンチ等からのサインを見ない。遅延行為として注意します。
23. 選手の追加、変更、背番号の移動は、当大会登録表提出後から大会終了迄出来ない。
24. 大会使用球は、京都軟式野球連盟公認ナガセケンコーボールのJ号とする。
25. 捕手の用具、バット（金属）等及び野球用具は、J SBB 公認である事。
26. スポーツ障害保険に必ず各チーム加入すること。
27. 大会に於いて不正を行ったチームに対して、連盟の規定に従い処置を行う事がある。

28. 南京都少年野球連盟 特別規則(けが等防止)

ファウルボール区域で飛球を捕球後、其のままボールデッドラインを越えるとファウルボールとする。
(本年度ボールデッド区域で飛球を捕球後の内容の変更がありました但し採用しておりません)

29. 選手不足によるA部とB部選手の重複登録によるチーム編成及び監督・コーチ・スコアラーの重複登録を認めず。
30. 選手不足による連合・合同チーム編成は、認めず。尚、混成ユニフォームでも認めますが背番号は重複しない事。
31. 投手の投球制限 投手の投球制限は1日5年・6年は70球4年以下は60球までとする。(4年生以下の選手を打順表に○をつける。)

試合中規定投球数に達した場合、その打者が打撃を完了するか攻守交代まで投球できる。延長戦又はタイブレーク【特別延長戦】になった場合、1日規定投球数以内で投球できる。

牽制球や送球と見られるものは投球数とはしない。又、ボークにもかかわらず投球したものは、投球数に数える。

32. その他 野球用語と7回まで試合が出来る為に

(1) 時間内に7回まで試合が出来るように両チームが協力して行うこと

- ・攻守交替は、投手も駆け足で行い、捕手は事前に用具装着と代理捕手を準備して置くこと。
- ・捕手は、投球を受けたら早くその場所から投手に返球する事 (毎回、前に移動して返球しない)。
- ・投手は捕手から返球を受けたら速やかに投球姿勢に入ること (毎回、プレートや付近を直さない)。

(2) その他 審判への挨拶、お茶出し

- ・試合終了両選手の挨拶後に、改めて試合担当3審判への挨拶は、「無し」とします。
- ・試合中の3審判へのチームからのお茶出しは、「無し」とします（本部で用意します）。

以 上